

マルコ・ファティケンティ 待望の神戸公演！



ベートーヴェン：ピアノ・ソナタ第30番

グラナドス：組曲「ゴイエスカス」第2部

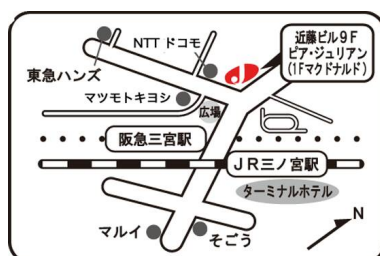
ドビュッシー：前奏曲

ラヴェル：ヴァイオリン・ソナタ第2番（ゲスト：小林美緒）

自由席：3,500円

2020年1月5日（日）14時開演

ピアジュリアン 神戸・三宮





マルコ・ファティケンティ Marco Fatichenti

英国王立音楽院ポストグラデュエート・ディプロマを最高得点にて首席で修了。修了時、成績優秀者に贈られる「Dip.RAM」賞受賞。在学中は同音楽院より学費免除、マイラ・ヘス奨学金、ゲオルク・ショルティ財団奨学金など多数の奨学金を得る。クリストファー・エルトンに師事。

コンサート、レコーディングピアニストとして、これまでにロンドンのウィグモアホール、クイーン・エリザベスホール、バーミンガム・シンフォニーホール、ダブリン・コンサートホール、マドリード国立音楽堂、バルセロナ・ラウディトリ、バレンシアのパラウ・デ・ラ・ムジカなどで演奏。また、イタリア外務省の招きによりスペインのサラゴサ国際エキスポにて演奏を行う。スペインRTVE、アイルランドRTE、ポーランドラジオ、BBCラジオな

どの番組にも出演。

タイムズ紙上でヒラリー・フィンチ氏によって「ショパンの化身」、その他にも「圧倒的スケールのブラームス」(International Record Review)、「クラシカルな秩序とロマンティックな熱情の完璧な調和」(International Piano)と称賛される。故・中村紘子氏も「大型のピアニストとしての魅力をすべて備えた輝かしい演奏で他を圧倒。改めて西欧文化というものの達成した計り知れない奥行き、深さ、そして距離を思い起こさせるほどのものだった・・・」(ムジカノーヴァ)と絶賛した。

リサイタルピアニスト、室内楽奏者として活躍するかたわら後進の指導にもあたる。現在、研究者としてロンドン・キングス・カレッジにて「20世紀初頭のスペインとカタルーニャ地方のピアノスクールにおける演奏実践」を研究。www.marcofatichenti.com



小林美緒 Mio Kobayashi

2007年シゲティ・フバイ国際ヴァイオリンコンクールにて入賞、及び特別賞受賞。英国王立音楽院(Royal Academy of Music)を首席で卒業し、修士を取得。

4歳でヴァイオリンを始め、13歳で米国オハイオ州クリーヴランド音楽院のYoung Artist Programの奨学生となる。2008年、江口玲氏とトッパンホールにてリサイタルを開催。世界各地の音楽祭に参加し、欧州、及び日本においてソリスト、そして室内楽の一員として活動し、数々の賞を受賞。

以降、ハリソン・パロット(アーティスト・マネジメント会社)、弦楽器オークションハウス「タリシオ」ロンドン支店のGMを経て2013年に帰国。6年間日本の音楽業界で務めた後、2019年の夏に再び渡英。

【福岡公演】2020年1月6日(月) アクロス福岡 円形ホール
【東京公演】2020年1月10日(金) めぐろパーシモン 小ホール

お問い合わせ先: mkobayashi3030@gmail.com